

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

Vol.

125号

2002 (平成14) 年
7月1日発行

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-2
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 2 作者 尾崎わたるさん (詳しくは15頁をご覧ください。)

アジア太平洋障害者の10年
1993年～2002年

法人本部・印刷事業本部(〒165-0023中野区江原町2-6-2)・コロニー中野・コロニー印刷所(〒165-0023中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山(〒189-0001東村山市秋津町2-22-9)・IT事業本部・デジタルメディアセンター・アートビリティ・トーコロ情報処理センター事業部・職能開発室(〒162-0051新宿区西早稲田2-2-8)・大田福祉工場(〒143-0015大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002東村山市青葉町2-39-10) 国分寺戸倉寮(〒185-0003国分寺市戸倉1-21-9) 東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004東久留米市氷川台2-31-22)

時 評

心の豊かさ、暖かさとは

理事長 勝又 和夫
かつまたかずお

一、はじめに

六月二十八日の朝日新聞の一面に「都立福祉施設の廃止または民営化」という記事が載りました。この「報告書」を入手し、読ませていただきましたが、この中で、「都立福祉施設は民間施設が不十分な時代に整備され、民間施設が量的・質的に充実してくるにつれ、占める位置づけが変化した、サービスを選択・利用できる福祉システムを構築していく中で、都はサービスの直接提供者から新しい福祉システムを維持・向上する役割に重点を移行する必要がある。障害者施設では、規模の小さな施設は順次民間委譲等を進め、規模の大きな施設は規模を縮小した上で民間委譲等を進め、利用者ニーズの薄れている施設や施設の目的と実態が乖離している施設等は廃止または施設種別変更や統合を行う。」として二十を超える施設について、その方向等が記述されていました。

私は二年前から東京都社会福祉事業団の評議員をさせていただいておりますが、今回組上にあがったいくつもの施設の状況を聞かせていただく中で、たとえば一施設六百名を超える利用者定員の施設を、今後どのように規模を縮小し、民営化するのか、また、多数の処遇困難者が利用する施設の民間化はどのようにされるのか等、詳しく聞いてみたい気がしましたが、このことに連続する

ように、七月十六日付の東京都の人事異動で福祉局長・次長・総務部長等、この報告書に関わった多くの方々の栄転が載っていました。

二、専門性とは

当法人が知的障害者の方を本格的に受け入れはじめたのは、一九九一（平成三）年からで、現在では約七十名の方が利用するまでになっています。しかし、当法人は、結核回復者の方が事業を起こし、その後身体障害者を本格的に受け入れる中で「働くことを通じた完全参加と平等」を事業の柱として今日に至った結果として、つい先日、当法人のある理事の方から知的障害者に対する専門性の不足を指摘されました。

「人間はみな同じ、目を見て心を開けば何も難しいことはない」と言われて知的障害者の施設をつくり、その数年後には精神障害者の施設も開設されました。「もっとかわりたい」「何年後かにはこうしたい」と思いつつも、法人全体の運営の中で現場を離れ、離れることでの職員（従業員）の流動化が起り、託したつもりの従業員も散逸し、新たな所長（施設長）のもとで再構築を繰り返して今日を迎えているように思えます。

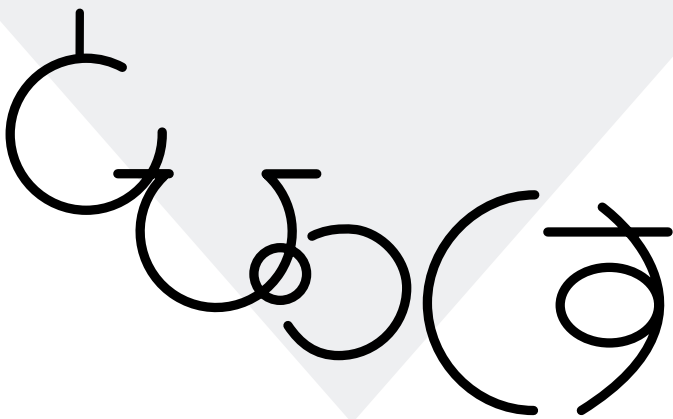
東京都の福祉は全国一と言われ、私どもと違って都立施設では利用者に対応の難しい人が多いことなどか

らも多くのノウハウや専門性が、歴史の中で培われ育まれてきたものと思います。

来年の四月からは支援費制度が始まりますが、先出の理事の指摘もあり、本格的な従業員研修の場を順次つくっていくことにしており、その中では私どもの施設が一生懸命頑張れば頑張るほど、結果として対応の難しい人たちが増えてくると思いますが、それにしても都立のノウハウには遠く及ばない気がします。

三、前年度の事業を終えて

二〇〇一年度の事業報告および決算結果は本号九頁より掲載させていただきましたが、特徴的には「苦情解決事業の本格的な開始」や「知的障害者生活寮の開設」等、当法人としての運営の方向性の転換が際立ったものであったと思います。企業の授産事業経営を特徴としつつも経済変革の波を大きく受けて一つひとつの事業を見ると、その苦しさが色濃く漂うものとなっています。この改善には当法人の五十年の蓄積を傾けて取り組みつつありますが、その一方で社会的に弱い立場にある人への共感や時代の変化の中で担うべき役割の変化に、公的責任が見えにくくなる中で、「人の痛みを知り、一人ひとりに対する人生の応援の場をつくる」ことが、私たちは改めて求められていると思います。



中野工場

地域で生活するとうきょう(II)

中野工場の通所化の取組みについて、今回は全体状況をご報告しましたが、今回は個別の事例を本人に了解のうえご報告します。

Iさんは日常生活で、ベッドと電動車いすのトランス（乗り移り）、トイレの便座とのトランス、入浴の全介助等、二十四時間断続的に介護を必要とするなど全身性の障害をもつ最重度の身体障害者です。

地域で生活するためには介護人の確保が絶対条件になります。幸い住宅を探す取組みの中で協力関係ができた江戸川区の（民間の）障害者の自立生活を支援する当事者団体である「CCM（コミュニティ・チャレンジド・メイツ）」の担当者と住宅を仲介した不動産会社の担当者の全面的な協力を受けることができ、横芝町（前措置機関）、江戸川区との調整や、介護人の手配等ようやく見とおしが立ってきました。

介護人については、区のヘルパー制度と都の全身性障害者介護人派遣制度を利用することにしました。全身性利用のための特別障害者手当（国制度）の受給申請、住宅改造の交渉、夜間、早朝、休日の介護人の確

保等、それぞれ時間をかけながらの交渉ではありますが、たくさんの協力者があってのこととはいえ、なにより本人が主体的に自分の生活を作り上げていく様子を見るにつけ、本人にとって貴重な時間であり、必要な時間であるような思いがします。

下表は予定されている介助チャートです。各種のサービスをうまくコーディネートできるように努めてほしいと思います。

◎通所が始まって一カ月が経過しての感想をご紹介します。

1、通所にしてよかったこと

・寮に比べ一人暮らしは精神的に楽、アパート暮らしはいい（周囲への気兼ねがない）。

・通勤に一時半かかるが、徐々に慣れてきて、あまり苦にはならない。

2、大変なことは？

・経済的負担が大きい。家賃や一人

Iさんの「1日介助チャート」

平日は、コロニー印刷所(中野区内)へ通所

時間	月	火	水	木	金	土	日	介助内容	時間
4:00								①ドア開閉、トランス、トイレ、身支度、朝食準備	4:00
5:00									5:00
6:00	①							②ドア開閉、トイレ、着脱衣、トランス、清拭(ただし、水曜日はトイレのみ)	6:00
7:00									7:00
8:00						⑧		③(洗濯、掃除)	8:00
9:00									9:00
10:00						⑨	⑥	④トイレ	10:00
11:00									11:00
12:00								⑤ドア開閉、トイレ、着脱衣、トランス	12:00
13:00									13:00
14:00						⑩		⑥訪問リハビリ	14:00
15:00			⑤	⑥				⑦巡回入浴	15:00
16:00				⑦					16:00
17:00									17:00
18:00								⑧トランス、トイレ、身支度、朝食準備	18:00
19:00	②					⑪		⑧掃除、洗濯、身支度、朝食準備、トイレ	19:00
20:00									20:00
21:00	③							⑨トランス、トイレ、買い物、夕食準備	21:00
22:00									22:00
23:00	④							⑩トイレ、清拭	23:00
0:00									0:00

凡例: 区ヘルパー 全身性 訪問リハ 巡回入浴

暮らしの準備に必需品を揃えなければならぬ。

・バリアフリーマンションだが自分に合った住宅改造が必要なこと（トイレ、ドア、お風呂など）。

・天候の悪い日の通勤は厳しい（幸いこの二カ月はほとんどなし）。

3、これから

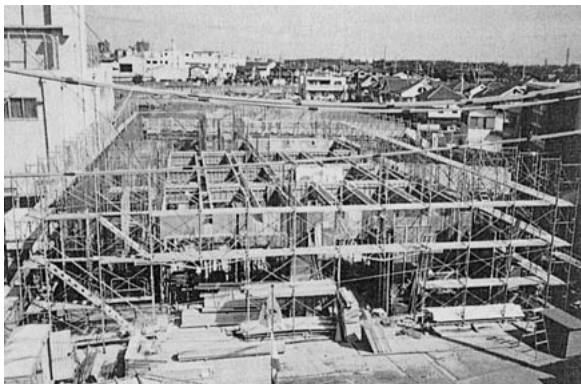
- ・公営住宅に応募したい(家賃が高いため)。
- ・介助人を使うことに慣れていないためもっとスムーズに利用できるようにしたい。

〔総務部長 星 忍〕

東村山工場

新工場(社会就労センター) コロニー東村山第二印刷所 進捗状況

二〇〇二年一月二十四日に地鎮祭を催してから五カ月を経過しようとしています。新工場建設は順調に進んでおります。二月九日に地盤の基礎掘削工事が開始され、五月中旬に二階屋根部分にもコンクリートが打設され建物全体の基礎を終えました。施主と建築業者、設計業者の三者で施主定例会議を隔週、建築業者と設計業者二者で技術定例会議を毎週開催し、建築進行上の課題を細部にわたり確認しながら進めていただいております。引き渡しを九月十三日に予定しており、翌日からの三連休を使ってまず中野工場設備の移動を、さらに翌週の三連休に東村山工場の移動を予定し、機械の稼動率低下にできる限り影響を与えないよう



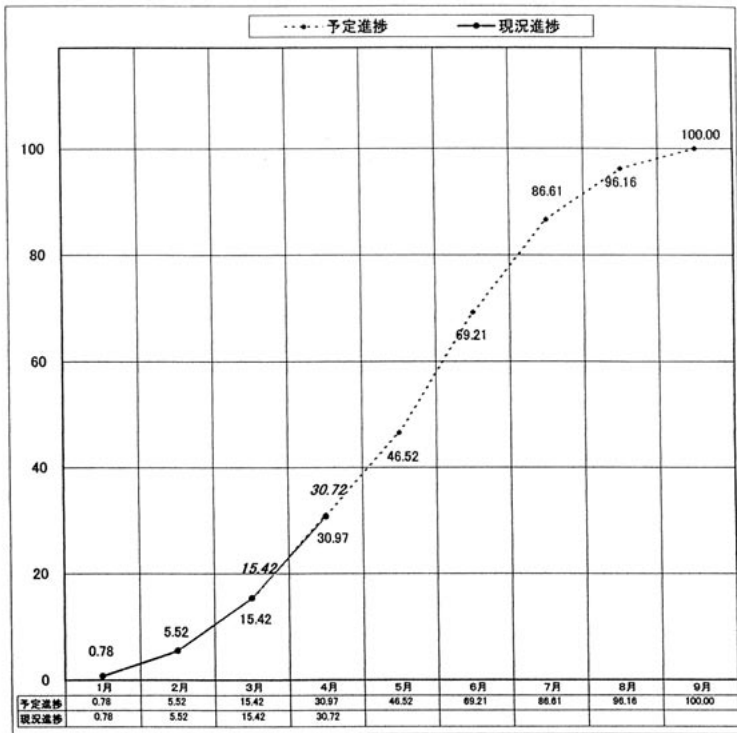
1階A工区型枠建込み状況(4月26日現在)

にしています。

二〇〇一年度には新工場建設にあたり、新施設建設委員会を発足させ、開設までの課題を整理し、従業員の意見を反映させるべく協議を重ね、事前の準備を進めてきました。課題が具体化される中、二〇〇二年度の印刷事業本部の方針にその課題を反映させ、建設委員会の機能を引き継ぎ、中野、東村山、大田の三工場から委員を選出し作業委員会を発足させ、実務担当者で具体的な検討を重ね準備を進めています。

①運営体制、人事考課、処遇などの整合性をはかり、工場間の受渡し価格の設定などを行う。

総合進捗状況



- ②受注確保、受発注・売上・外注などの整合性をはかる。
- ③資材手配、在庫、差益、在版、工程、外注管理などの整合性をはかる。
- ④刷版、印刷、仕上げ、業務の各部門でのコミュニケーションなどを行う。
- ⑤工程、配送、受発注などの整合性をはかる。
- ⑥徹底した品質管理システムの構築(人的対応・機械対応を含め

- ⑦ファイル管理の統一と整合性をはかる。
- ⑧ネットワークおよびインフラの標準化を行う。
- などの課題を持ち取り組んでいます。想定されるあらゆるトラブルを回避し、従来の弱点を改善し、早く立ち上げ安定させることが当面の課題です。

〔所長 中村敏彦〕

大田工場

修学旅行で工場見学

五月二十四日、愛知県の中学三年生のみなさんが修学旅行の一環として大田工場を見学されました。三名の方から「お礼の手紙」が届きましたのでご紹介します。

『去る五月二十四日の修学旅行では、いろいろお世話になりました。この修学旅行の体験学習を通して私が一番思ったことは、清水さんも言われていたように、物のバリアフリーも大事だけれどそれよりも心のバリアフリーが大事だということです。名刺に点字が書いてあるのを初めて知り、鏡も少し下向きに掛けてあって驚きました。マンションに車いすの人が住むことの大変さにも驚きました。今は障害者の方だけでなくお年寄りの方も増えていて、これからはさらに大きな心の輪が必要になってくると思います。いろいろなことを教えていただき私にとってとてもいい機会になりました。ここからの勉強にこの経験を生かしていきたいと思っています。』

『私はこの修学旅行の体験学習で

興味を持ったのが工場の点字の名刺を作っているところでした。小さな針のような物をつつひとつ手で入ると聞いた時、とてもびっくりしました。工場・宿舎内のお手洗いやお風呂などにもびっくりしました。お手洗いは広くて、車いすに乗っていても動きやすそうです。いいなあと思いました。工場のみなさんには親切にしてくださいありがとうございます。いろいろな施設が見学でき、私にとってはいい機会でした。この経験を生かしてここからの勉強を頑張つてやりたいと思います。』



『私はこの修学旅行の体験学習で、これから私達ができるバリアフリーがよくわかりました。これから私はいろんな所にバリアフリーを考えたと思います。大田福祉工場のみなさんはとてもすごいと思いました。私達ができない仕事を一生懸命やっていたので初め驚きました。私もみなさんのように自分で自分のことができるようになりたいと思いました。もっとバリアフリーを考え、勉強してもっと

いいバリアフリーを作りたいと思います。最後になりましたが、大田福祉工場のみなさんのご健康を祈ります。』

最後に工場前で写真を撮り、次の上野動物園へ向かったみなさんでした。

（総務係 所 克子）

ＩＴ事業本部

職業紹介時の雇用関係給付金 取扱事業者になりました

職能開発室では、一九九九年年度より障害者の職業紹介事業を開始しております。主に重度身体障害者の在宅勤務などを対象に、毎年少数ではありますが、企業と働きたい方との間でパイプ役を務めてまいりました。

このたび、助成金制度の改正（二〇〇一年十月一日付）により、雇用関係給付金取扱事業者として新たな標識を掲げることとなりました。平たく申しますと、職能開発室を通して障害者を雇い入れた場合、事業主さんはその社員の給与の一部支給など、助成金がいただけるようになったということです。

改正以前にこうした恩恵にあずか

るには、事業主さんは必ず職安を通して障害者の方と出会う必要がありました。わたくしどもが求人と求職者を仲介した場合、それがどんなに雇用主さんの努力や工夫の上に成り立ったものであっても、これらの助成を受給してもらうことができません。歯がゆい経験をしたものです。

今回の改正後は、わたくしどもの責任のもとに必要な助成を受けていただくことができるようになりますので、一層やる気が出てまいりました。と同時に、労働の諸知識なども



ています。リストラの一方でワークシェアリングや退職者活用制度など、新しい共働への工夫も生まれています。

こんな時代だからこそ、ピンチはチャンス。短時間勤務やパート正社員など重度障害者のチャレンジできる可能性は大きいのではないのでしょうか。これからも求人求職双方にとつて前向きな働き方を提案し、誠実に仲介を行なっていきたいと思

ますので、皆様がご存知の事業主さんにもどうぞこの情報をお届けいた
 だくよう、よろしくお願い申し上げます！

（職能開発室 堀込真理子）

青葉ワークセンター

全生園野球場の芝刈り作業

今年も全生園野球場の芝刈り作業を五月三十日から始めました。前日までに芝刈り機の試運転も兼ねた整備を行い、くま手や軍手などの備品の点検も済ませ準備万端です。

当日は、気温がグングン上がって午前中に真夏を思わせる暑さとなりました。利用者が炎天下に麦わら帽子スタイルで芝刈り機を走らせ、白い排気ガスを吐き出しながら、ボールが隠れてしまうほどに伸びた芝を刈り取っていき、その後をくま手班が刈った芝を集めて袋詰めにしていきます。芝刈り機のカソリンの臭いと、刈り取った芝の臭いが混じり合っ
 つて青い空の下に漂います。ものもの
 十分もしないうちに、芝を集めている
 利用者の顔から汗がひとすじ、ふ
 たすじ流れ落ちるのが見えます。遠
 く外野の隅から隅へと移動する芝刈
 り機のエンジン音が広いグラウンド
 に響きわたります。

芝刈り作業は、これまで精神障害の人たちを中心に取り組んできましたが、今回は午後から一部の知的障害の人たちも作業に加わりました。



このように、障害に關係なく芝刈り作業をや
 ってみたり人たちが
 やでできる
 人たちが
 仕事を進
 められ
 ばと考
 えていま
 す。六月
 からは月二回の作業ローテーション
 となり、九月まで続きます。
 暑さに負けないように体調を万全
 にして取り組んでいきたいと思いま
 す。

（製造部長 金子 貢）

葛飾

ボウリング大会に参加して

梅雨曇りの六月十四日・金町ダイ
 ヤレーンで今年も恒例の金町・立石
 工場合同ボウリング大会が交友会主

催で行われました。

私は今年の交友会役員で本来はゲームに参加しないのですが、欠員があり飛び入りました。結果は、ブ
 ービー賞を戴いて(?)しまいました。
 ことほどさように下手なので、ずっ
 とボウリング大会には不参加でした。
 役員も初めてで、会場で勝手がわ
 からず、まごついてるうちにゲーム
 ム開始、金町・立石各二名の組合せ
 のうち、私がトップでゲームするの
 でせかれ、玉も適当に選び、後で
 指が痛くなりました。穴の中に入れ
 る指が違っていたのがわかり、ブ
 ービー賞もそのおかげかもしれません。
 負け惜しみでしょうか。

金町・立石工場は毎年、(今年は中止でしたが「四月の花見」に始まって、六月ボウリング大会、七月金町花火大会、十一月社内旅行(今年はナシ)十二月は忘年会と合同行事を交友会主催で行なってきました。が、私の

見るところ、各行事では、各々工場の仲間
 で固まって交流するといふ雰囲気
 ではなかったように思います。

それがボウリング大会ではゲームが進むにつれ、ミスには互いにアド
 バイスと励ましのゼスチュア、パ
 ーフェクトには拍手、と盛り上がっ
 ていました。その空気を
 感じ、私には楽しい二時間でした。

車イスでただ一人参加した男性は、ハンディにも淡々と、特に手助けの
 必要なくゲームを楽しんでるよう
 に見えましたので、来年は立石から
 も車イスの方にぜひ参加してほしい
 と思います。

私も来年からは参加することにし
 ますが、またブービー賞をもらって
 しまいそうな予感がします。終りに
 私のモットー(?)を。
 、人生は一度だけ、少しでも楽し
 むう!

（立石工場・製袋課 田邊いち子）

『障害者福祉とはなにか』

手塚直樹著
 （ミネルヴァ書房発行／定価2,000円＋税）

長年にわたり障害者の雇用就労の現場、また指導的立場で活躍されている手塚直樹先生が、障害者福祉を初めて学ぶ人のための入門書を執筆されました。

手塚先生は当法人の理事・評議員として大変お世話になっている方でもあり、そのあたたかなお人柄が伝わってくるやさしい語り口で、具体的な事例を含めながら障害者福祉を体系的にわかりやすく記述され



第6章「障害者とは」一福祉の章では、について述べら
 口ニーで働くことを確認する
 みたい、またこ
 になる方々にも
 と感じます（この本では、東京コロニーで働く3人の
 方の写真が掲載されています!）。

内容をご紹介させていただきます。

- 序章 いくつかの事例から
- 1章 障害をどうとらえるか
- 2章 障害者福祉の基本となる理念を考える
- 3章 障害者福祉はどのように発展してきたのか
- 4章 地域生活支援と障害者ケアマネジメントおよび権利擁護体制をとらえる
- 5章 リハビリテーションとは
- 6章 障害者にとってはたらくとは
- 7章 生活をより豊かにするために
- 8章 障害者運動はどのような役割をはたしてきたか
- 9章 ニーズの視点から障害者福祉の制度と内容を理解する

開 所 東久留米(第一・第二)氷川台寮 OPEN!



生活支援課長

下 田 尚 登

▼地域生活支援のために

東京都東久留米市氷川台の旧小山市幼稚園跡地に、東京都の平成十三年度心身障害者通所施設等緊急整備費補助金を受けて当法人が設置・経営する知的障害者生活寮「東久留米第一氷川台寮（定員六名）」および「東久留米第二生活寮（定員六名）」が完成し、平成十四年四月一日に現地において開所式を行い、同日より利用が開始されました。

当日は晴天に恵まれ、東久留米市の野崎市長をはじめ同市厚生委員会委員長である仲市議員、同市保健福祉部の君島参事、島崎障害福祉課長に来賓としてご出席いただくとともに、福祉事務所のケースワーカー、近隣の施設関係者、隣地にお住まいの立子山元NHKアナウンサーにもお出でいただき、入寮者およびそのご家族と当法人の勝又理事長をはじめとする当法人関係者ともども和やかに開所のお祝いをさせていただきました。

式典では、勝又理事長より生活寮の開所にあたって当法人を代表してご挨拶を申し上げましたが、生活寮の開設を契機としてこの地域の福祉関係者と連携して知的障害者の地域生活援助事業を実り多きものとしていくための取組みを積極的に展開していく運営方針が披露され、野崎市長が

らは、市の負担なしに生活寮を開設した当法人に対する感謝と東久留米市における今後の当法人の関わり方について期待している旨のお話をいただきました。



また、この生活寮の建築に関し多大の貢献をされた株式会社幸新設計代表取締役の奥澤氏ならびに株式会社篠宮土建代表取締役の篠宮氏に勝又理事長より感謝状が贈呈されました。

式典の最後には、生活寮を利用する十二名の入寮者全員が一人ひとり自己紹介をしました。その後、ご参加いただいた皆様に生活寮を見学していただいたから懇談パーティを行

いしましたが、十二名の入寮者全員が少し緊張する中にも晴れがましく嬉しそうな表情を見せていたことが強く印象に残りました。

▼一人ひとりの可能性を信じて

この生活寮の運営にあたって、入寮者の障害の状況が多岐にわたることを踏まえ、個々の利用者の持つ生活能力の可能性を信じ、これを自発的に引き出す努力をすることを前提とするものの、寮における生活場面においてはいわゆる当番制などの導入による指導・管理的な方法を行わず、あくまで自己決定を尊重しながらエンパワメントを育んでいくこととさせていただいております。

開所以来二カ月余が経過した現在、入寮者のみなさまが生き生きと生活している様を見ながら、この事業を始めてよかったと思うと同時に、実践場面において声掛けを中心に入寮者個人個人に寄り添いながら自立性を育む援助をすることの大切さを改めて感じさせられております。

▼地域の中で連携を

この生活寮を何とか無事に立ち上げることができましたが、今後に向けては、生活の場としてのプライバシーに最大限の配慮をしつつも、よ

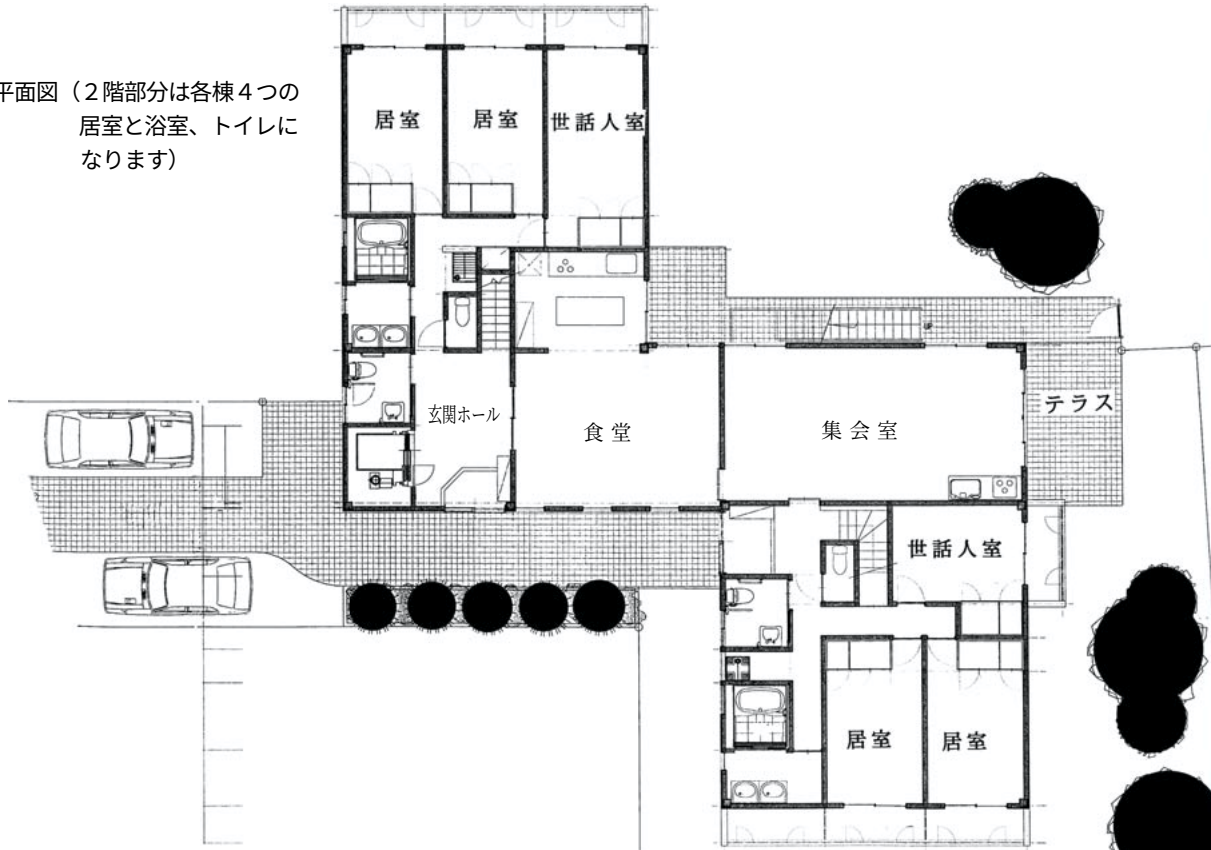


南側面を隣家よりのぞむ



り多くのボランティアの方々に関わ
っていただくことと、東久留米市を
中心とするこの地域の福祉関係者の
みなさまと連携して、より地域生活
援助事業としての機能を併せ持つよ
うに取り組んでいくことが課題とし
て残されていると考えております。

1階部分平面図（2階部分は各棟4つの
居室と浴室、トイレに
なります）



〈所在地〉
東京都東久留米市氷川台2丁目31番地22号
〈施設の種類〉
知的障害者生活寮（グループホーム）
〈利用人員〉 1棟6名定員（合計12名）
〈敷地面積〉 542.88㎡（2棟合計）
〈建物面積〉 207.75㎡（2棟合計）
〈延床面積〉 357.82㎡（2棟合計）
〈運営主体〉 社会福祉法人東京コロニー
〈日常バックアップ施設〉 コロニー東村山印刷所



2階屋上を第一寮よりのぞむ

2001年度

総括事業報告書

1、はじめに

社会福祉基礎構造改革は、社会福祉法人改革や支援費支給方式に向けて次々と具体化されつつあり、こうした中で、当法人は関係団体等の中で一定の発言の場を持つとともに事業所が所在する区市等との関係づくりに積極的に取組み、一方では二〇〇三（平成十五）年度から実施される支援費支給方式や新会計基準への対応についての取組みを行いました。

また、二〇〇一年六月二十五日付で実質的に当法人を築き、運営してきた理事長が病氣療養のため辞任し、後任の理事長も九月七日付で病氣療養のため辞任する事態となり、九月八日付で新理事長を選任し、二〇〇二年十一月二十七日の役員改選までの間、止むを得ず新理事長が専務理事および事務局長を兼務する体制となりました。法人運営体制の強化が緊急の課題となったため、理事定数を七名から九名に、評議員定数を十五名から十九名に増員する定款変更を実施し、東京都の承認を得て二〇〇二年三月二日の評議員会、理事会において増員となった理事および評議員の選任を行うとともに、新年度から法人本部事務局次長を配置し、二〇〇二年度においては法人本部事務局とIT事業本部事務局との統合的運営により事務局機能の強化を図ることといたしました。なお、本年度末での東京都葛飾福祉工場の

所長であった常務理事の退職については、東京都の協力を得て、本年度末で東京都を退職する職員を迎え、福祉工場担当常務理事および葛飾福祉工場所長とする人事を決定いたしました。

当法人の主力事業である印刷業は、本年度に入ってさらに急激な売上高の減少により、非常に厳しい事業運営となりましたが、こうした中で、印刷事業の経営改善の要として新工場の建設に着手し、二〇〇二年十月一日の開所に目処をつけるとともに、東京都大田福祉工場には本年度末をもって東京都を退職する職員を所長とする人事を決定し、その事業再建に背水の陣の思いであたることとしました。また、新工場の開設にともなう機能移転する社会事業通所授産施設コロニー中野の知的障害者中野区と二〇〇三（平成十五）年度事業として実施の方向で協議を重ねるとともに身体障害者授産施設コロニー印刷所の通所化についても本年度を通じた取組みの結果、東京都より来年度からの通所授産施設としての開設が認められました。

情報処理事業は、IT事業本部のトータル情報処理センター職能開発室、トータル情報処理センター事業部、デジタルメディアセンターの各事業において、厳しい社会状況ではあるものの関係者の協力や自らの改

革の意志のもとに事業展開を図り、事業計画を達成しました。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業は、防災部門の売上高が堅調であったことと、製袋部門および縫製部門においても東京都をはじめ各自自治体、各種団体等からの受注活動が効果を生み前年比で一定の事業好転となりました。

メールサービス事業は、補助金等を含めた事業トータルでは堅調に推移したが、事業としては赤字要素を抱えたままのものでした。この改善については、管理体制の見直しや人事異動を順次行い、新年度に向けてはさらなる体制強化を図りました。

地域生活支援事業については、第二号、第三号の生活寮の二〇〇二年四月一日付開設を確実なものとするとともに、国分寺戸倉寮の欠員状態をこの年度で解消いたしました。また、次年度より法人本部事務局に生活支援課を置き知的障害者生活寮全体の管理と本格的な地域生活支援事業を担う体制を準備いたしました。

2、個別事業状況

（一）法人本部

法人全体の全般的諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行いました。また、理事長の交替が相次いだため、現理事長が専務理事・事務局長を兼任する体制で法人機能を維持するとともに三つの施設建設や

五十周年事業等を予定どおり実施いたしました。

特に新たな社会事業授産施設（印刷新工場）を開設するための取組みでは、国有地の払下げを受け、工場建設に着手するとともに社会事業授産施設コロニー中野の用途変更についても具体的な取組みを行いました。また東久留米市内における新たな生活寮の二〇〇二年四月一日付開設を確実なものいたしました。なお、コロニー中野の本年度機器整備事業である日本自転車振興会補助による印刷設備整備も実施いたしました。

(二) 情報処理事業（トリーコロ情報処理センター職能開発室、トリーコロ情報処理センター事業部、デジタルメディアセンター、アイトビリティ）

トリーコロ情報処理センター職能開発室は、東京都重度身体障害者在宅パソコン講習事業（教育）、有料職業紹介・コンサルテーション事業（雇用支援）、ＳＯＨＯ支援事業（就労支援）を計画に添って着実に実施いたしました。なお、事業に対する社会的評価は高いものの、運営基盤が脆弱であることについて、次年度以降の事業のあり方について補助先等との協議を進めたが結論を得るに至りませんでした。なお、雇用支援事業についてはこの年度に「雇用関係給付金取扱事業者」として認定されました。

トリーコロ情報処理センター事業部は、厳しい経済環境の中、日常の一つひとつの積み重ねにより結果として黒字基調で事業を推移させることができました。

デジタルメディアセンターは、ＩＴ分野における先進的な取組みを課題として上半期は、新事業「子どもエコム」を発足させるなどの新たな取組みにも着手し、このための投資等により赤字となりましたが、年度をとっては一定の成果の中で黒字化を達成することができました。

(三) 印刷事業（コロニー中野、コロニー印刷所、コロニー東村山、印刷所、コロニー東村山、東京都大田福祉工場）

印刷事業は前年度より大幅に売上高が減少し、苦しい経営状況が続いております。印刷業の需要の変化への対応策としての新たな工場建設に向けて、事業のＩＴ化やＩＳＯ認証取得等を含め抜本的な経営対策が次年度の課題となっております。

印刷三工場とも売上高の減少に歯止めをかけるための人事を含む営業対策や印刷事業本部内での相互発注による内作強化および用紙差益や品質の維持を図るための管理体制強化を実施するなどあらゆる手段を講じて経営改善を進めつつあります。

(四) 縫製、製袋、防災・安全用品等製造販売事業（東京都葛飾福祉工場）

防災・安全用品等製造販売事業は売上高の維持を図るため都・区市をはじめ他の県・市に対する営業活動や民間を主体とした販売活動に力を入れた結果、トータルでは売上高を伸ばし堅調に推移しました。縫製部門、製袋部門においては受注対策による売上増はあったものの部門としては依然として赤字の改善は難しいものでした。

(五) メールサービス事業（トリーコロ青葉ワークセンター、トリーコロ青葉第二ワークセンター、トリーコロ青葉第三ワークセンター）

メールサービス事業は、売上高が製造費・販売費の合計額を下回り、措置費収入や事業外の収益により黒字を計上しており、事業での黒字化が課題として残っております。

(六) 清掃事業（トリーコロ青葉第三ワークセンター）

合築施設全体の業務を行うほか、東村山工場の館内清掃や全生園の施設清掃や野外清掃等定期的な受注先も増えつつあります。

3、その他の事業状況

(一) 本年度決算

本年度決算は「総括損益明細表」に示すとおりですが、法人全体としては一、三三三千円の剰余金計上となりました。ただし、その内容においては印刷事業を中心に賞与の減額等により限られた資金の中での事業運営が求められており、その結果での黒

字化でもあるといえるものでした。

(二) 在籍者の状況

「在籍者の推移」に示すとおり、全事業所合計で六百二十名（障害者比率五十三％）となり、総人員では事業の厳しさから年々減少しつつあるものでした。

(三) 利用者処遇

施設利用者に対する工賃は知的・精神障害者の額は増えたものの全体では前年を下回るものであり、特に印刷事業の厳しさが反映したものでした。

なお、福祉工場における障害者従業員に対する支給額でも前年を若干下回るものでした。

(四) 苦情解決事業

本年度より開始した「苦情解決事業」については事業所毎に苦情件数や内容等に差があるものの、この中では、入所施設においてはオンブズマン制度が機能していることや、福祉工場においては労使協議等が定期的に行われていることにより、申立てがなかったと思われ、法人全体としては第三者委員による会議を年四回開催するなど本格的に動き出していると評価しております。

(五) 社会福祉基礎構造改革に対する取組み

社会福祉基礎構造改革に対応するための取組みとして「従業員行動規範」の制定・実施、「利用者支援マニュアル」の策定とフィードバック

六 特別会計

本年度における特別会計は「身体障害者施設整備補助事業（日本自転車振興会）」として社会事業授産施設社会就労センターコロニー中野の設備整備事業等、「民間社会福祉施設設備改善整備補助事業」として身体障害者授産施設コロニー東村山印刷所の中規模修繕、「東京都心身障害者通所施設等緊急整備費補助要綱の2に定める事業」として知的障害者生活寮の整備事業および「野村基金」でした。なお、「社会事業授産施設整備事業（日本財団）」については本年度および次年度の二カ年事業のため本年度においては建設仮勘定による処理といたしました。また、身体障害者福祉法二十五条にもとづく「身体障害者製作品販売斡旋事業」は東京都葛飾福祉工場および印刷事業ならびに公益事業（トリーコ情報処理センター）等において実施いたしました。が、補助金交付を得ない事業のため特別会計とはいたしませんでした。

4、利用者および就労人員（下記）

（一） 在籍者の推移

（二） 障害・非障害者別総括表

(1) 補助事業 (順不同)

補助団体等	事業内容 (事業所名)	補助金額 (総事業費)	補 助 団体等	事業内容 (事業所名)	補助金額 (総事業費)
日本社会福祉弘済会	ケースサポートシステムの開発 (コロニー中野)	300千円 (600千円)	東 京 都	重度障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター職能開発室)	6,540千円
三菱商事株式会社 環境室	重度障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター職能開発室)	7,000千円		施設機能強化推進費に関わる事業 (コロニー東村山印刷所)	300千円
				施設機能強化推進費に関わる事業 (コロニー東村山)	300千円

補助団体等	事業内容 (事業所名)	補助金 (総事業費)	補 助 団体等	事業内容 (事業所名)	補助金額 (総事業費)
東 京 都	施設設備改善整備費（中規模修繕） （コロニー東村山印刷所）	7,402千円 (9,870千円)	東 京 都 共 同 募 金 会	D T P部門のパソコン一式 （コロニー中野）	200千円 (225千円)
宮川高子記念福祉基金	空調機・ダクト改修工事 （コロニー東村山印刷所）	1,995千円		D T P部門のパソコン一式 （コロニー印刷所）	150千円 (225千円)
日本自転車振興会	中綴機及び殖版機 （コロニー中野）	33,705千円 (44,940千円)		パソコン一式 （コロニー東村山印刷所）	150千円 (160千円)
郵政事業庁	郵便料金別納料金計器一式 （コロニー中野）	1,118千円 (1,461千円)		パソコン一式 （コロニー東村山）	100千円 (101千円)
公益信託池田輝子記念 精神障害者福祉基金	パソコン一式 （トコロ青葉第三ワークセンター）	100千円 (144千円)		パソコン1台 （トコロ青葉ワークセンター）	100千円 (127千円)
公益信託障害者愛の 福祉基金	掃除機5台 （トコロ青葉ワークセンター）	160千円 (175千円)		パソコン1台 （トコロ青葉第二ワークセンター）	100千円 (127千円)
					フロアーファン2台、掃除機1台 （トコロ青葉第三ワークセンター）

（１）在籍者の推移

(单位:人)

		前年度末 在籍者数	期 中 増 減		主な減員理由			年度末
			増 員	減 員	自己都合	転勤など	疾病、その他	在籍者数
	雇用就労者	134	4 (2)	15 (2)	7	2	6	123
	授産施設の利用者	192	14 (5)	16 (1)	15	1	0	190
	パート等	10	1 (0)	4 (0)	2	0	2	7
	訓練生等	18	9 (0)	17 (4)	2	4	11	10
障害をもつ就労者 計		354	28 (7)	52 (7)	26	7	19	330
障害をもたない就労者		294	22 (13)	32 (13)	18	13	1	284
合 計		648	50 (20)	84 (20)	44	20	20	614

(注) 1 () 内の数字は法人内異動をあらわします。

(2) 障害・非障害者別総括表

2002（平成14年）3月31日現在（単位：人）

事業所名	① 障害等級別							②知的障害者	③精神障害者	④手帳を持たない障害者	⑤非障害者	①＋②＋③＋④＋⑤ 総人員	左のうちの車いす使用者（再掲）
	1	2	3	4	5	6	計						
法人本部	1						1				7	8	1
デジタルメディアセンター	8	2					10				12	22	5
トーコロ情報処理センター事業部	4	5	2			1	12				18	30	3
トーコロ情報処理センター職能開発室	9	1					10				4	14	8
I T事業本部							0				3	3	
コロニー印刷所	15	15	2	2		1	35	3	1		19	58	14
コロニー中野	8	10		1	1	1	21	7			36	64	8
コロニー東村山印刷所	12	14	4	1	1		32	4	1		38	75	12
コロニー東村山	8	5	2	1			16	7			5	28	2
東京都大田福祉工場	21	6	5	1	1	1	35			1	50	86	23
トーコロ青葉ワークセンター	17	3	1	1	2		24	17			5	46	12
トーコロ青葉第二ワークセンター							0	30			11	41	
トーコロ青葉第三ワークセンター							0		24		5	29	
東京都葛飾福祉工場	13	14	7	2			36	2	1		77	116	11
計	116	75	23	9	5	4	232	70	27	1	290	620	99

(注) 本表には、従業員、授産施設の利用者、嘱託、臨時、パート等すべてを含んでいます。
(なお、同一敷地内にある複数事業所兼任の嘱託医は、嘱託雇用を結んでいる事業所のみに記載されています。)

剰余（△損失）金処分（△処理）計算書

2002（平成14）年3月31日現在（単位：円）

当期末処分剰余（△損失）金				処 分
	前期繰越金	当 期	合 計	次期繰越金
(法人本部合計)	(90,976,200)	(12,264,967)	(103,241,167)	(103,241,167)
法人本部	90,350,704	12,264,967	102,615,671	102,615,671
生活施設	625,496	0	625,496	625,496
(I T事業本部合計)	(29,668,625)	(3,816,177)	(33,484,802)	(33,484,802)
事務局	1,505,053	△538,180	966,873	966,873
トーコロ情報処理職能	2,429,464	222,359	2,651,823	2,651,823
トーコロ情報処理事業部	24,839,276	3,890,351	28,729,627	28,729,627
デジタルメディアセンター	894,832	241,647	1,136,479	1,136,479
(印刷事業本部合計)	(△280,968,163)	(△84,789,578)	(△365,757,741)	(△365,757,741)
一般会計	△36,386,443	15,813,694	△20,572,749	△20,572,749
コロニー中野・印刷所	△29,861,468	△23,370,897	△53,232,365	△53,232,365
(東村山工場合計)	(18,494,448)	(470,420)	(18,964,868)	(18,964,868)
コロニー東村山印刷所	6,894,041	235,542	7,129,583	7,129,583
コロニー東村山	11,600,407	234,878	11,835,285	11,835,285
東京都大田福祉工場	△233,214,700	△77,702,795	△310,917,495	△310,917,495
(青葉ワークセンター合計)	(10,841,155)	(11,830,151)	(22,671,306)	(22,671,306)
トーコロ青葉ワークセンター	15,822,511	△7,313,982	8,508,529	8,508,529
トーコロ青葉第二ワークセンター	19,246,129	29,020,853	48,266,982	48,266,982
トーコロ青葉第三ワークセンター	△24,227,485	△9,876,720	△34,104,205	△34,104,205
東京都葛飾福祉工場	835,055,837	58,210,824	893,266,661	893,266,661
合 計	685,573,654	1,332,541	686,906,195	686,906,195

総括貸借対照表

2002（平成14）年3月31日現在

（単位 円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
1 流動資産		1 流動資産	
現金・預金	1,762,798,678	支払手形	442,738,268
受取手形	350,804,918	買掛金	859,732,579
売掛金	1,456,578,633	短期借入金	290,800,000
措置費未収入金	11,632,242	未払金	297,799,631
商品	292,527,228	前受金	103,487,279
製品	54,113,078	預り金	766,832,534
仕掛品	106,736,383	未払費用	103,489,835
材料	54,146,423	仮受金	10,200,000
貯蔵品	3,404,451	賞与引当金	147,901,936
前払費用	14,852,773	未払消費税	27,018,067
未収入金	93,983,976	流動負債計	3,050,000,129
短期貸付金	4,870,000	2 固定負債	
立替金	21,279,348	長期借入金	888,520,000
仮払消費税	4,088,756	退職給与引当金	891,066,116
仮払金	2,186,638	減価償却調整勘定	201,082,623
前払金	4,127,128	未決済	320,000,000
貸倒引当金	△12,434,392	固定負債計	2,300,668,739
流動資産計	4,225,696,261	負 債 合 計	5,350,668,868
2 固定資産			
(1)有形固定資産		基 本 金 の 部	
建物	834,591,504	1 基金	
造作	27,090,320	法人基金	1,098,790,247
建物付属設備	61,785,976	2 積立金	600,000,000
構築物	142,696		
備品	31,439,774	当期未処分剰余金	686,906,195
機械装置	318,911,852		
車両運搬具	7,497,450	[事業]	796,044,674
建設仮勘定	49,989,231	[委託事務費]	△154,717,696
土地	1,411,991,409	[委託事業費]	45,579,217
有形固定資産計	2,743,440,212	(当期剰余金)	1,332,541
(2)無形固定資産		[事業]	19,952,442
権 利 金	178,000	[委託事務費]	△19,065,020
電話加入権	6,514,615	[委託事業費]	203,472
無形固定資産計	6,692,615	基本金合計	2,385,696,442
(3)投資等			
退職給与積立金	36,422,156		
出資金	63,470		
差入保証金	19,736,583		
敷金	2,216,000		
長期前払費用	49,969,236		
長期滞留債権	10,775,491		
本部勘定(退特)	629,473,059		
投資等計	748,655,995		
固定資産計	3,498,788,822		
3 繰延資産			
開業費	11,880,227		
繰延資産計	11,880,227		
資 産 合 計	7,736,365,310	負債・基本金合計	7,736,365,310

* 1 リース料未払残高

＼130,082,598

売上高

＼7,085,244,069

* 2 減価償却累計額

＼1,316,848,715

苦情解決事業報告

本委員会では、昨年度の委員会(四回)での討議と、それぞれの担当施設における活動状況等を踏まえ、先に委員会報告をまとめました。苦情解決事業は二〇〇〇年に施行された社会福祉法の規定を根拠としています。東京コロニーはこの事業に先駆的に取り組み、苦情申出や受付の仕組み、第三者委員会の組織化をはじめとした対応がなされていることは周知のとおりです。

初年度にあたる二〇〇一年度には合計十七件の苦情申出がありました。委員会では事例を総括する中で「苦情」とは何か、「解決」とは何か、といった根本的な議論を重ねました。そして、苦情解決は、サービスを利用する皆さんの環境を良くすることが最終的な目標であるという認識から、いかなる申出であっても、申出人が苦情と実感して申し出たものであれば、先ずは苦情として受け止めるべき、という基本的姿勢を確認しています。また、第三者委員は、事業所にも利用者にも等距離の位置を堅持しながら、苦情解決事業を通じて、東京コロニーの事業に関わるすべての人々が建設的な取組みに参画できるように支援していくべきであると考えています。

さて、事例からいくつかの課題が導かれました。例えば、利用者本人のみならず関係者が代理人として苦情の申出ができるような

仕組みを作りつつ、苦情として解決されるべき問題は利用者本人に関わるものという理解を共有していきたいと考えています。同様に、匿名による苦情の申出については、一般論として注意を喚起するような方法でしか対応できない限界もあり、将来的には匿名性に依拠しなくても苦情表出ができるような雰囲気醸成が必要であると認識しています。そして、苦情解決は中傷合戦や個人攻撃ではないことを踏まえつつ、サービスの質の向上を検討する苦情解決事業以外の場の構築や第三者委員を交えての利用者の皆さん、職員とのグループミーティング等、建設的な場面の創出等が有効かと思われま

す。最後に、何よりも苦情が表出されるということ自体、風通しの良い施設運営が行われていることの証であることを第三者委員一同実感しています。今後も利用者支援マニュアルの策定等、東京コロニーの積極的な活動と併せて、苦情解決事業が真に利用者支援のサービス提供へとつながっていくことを期待し、また、その願いにお応えしていきたいと思

苦情解決第三者委員会(二〇〇一年度)

野村 敏 (委員長)、朝日 雅也、島田 肇
(文責 朝日)

苦情申出状況

事業所	申出件数	申 出 内 訳			解 決 状 況		
		対事業所	従業員対利用者	利用者間	事業所内解決	第三者委員関与	未解決
法人本部 (含生活寮)	0	0	0	0	0	0	0
I T事業本部 (三事業)	0	0	0	0	0	0	0
コロニー中野、コロニー印刷所	0	0	0	0	0	0	0
東村山印刷所、コロニー東村山	2	1	1	0	1	1	0
大田福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
青葉 (含第二、第三) ワークセンター	15	9	3	3	15	* (1)	0
葛飾福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
合 計	17	10	4	3	16	1	0

*家族会総会に第三者委員出席



アートビリティ ギャラリー 2

「気球とともに」尾崎わたる



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートアートビリティと改称。

今回は、新人アートビリティ登録作家の尾崎わたるさん。その才能とセンスには事務局一同驚きを隠せません。すでに「二〇〇三年度アートビリティカレンダー」での採用も決定しており、今後の活躍を期待する作家の一人といえます。

ここで、尾崎さんご本人が作成されたプロフィールをご紹介します。

・一九四八年十月二十九日、山梨県生まれ。

少年時代より絵や工作が得意で、特に模型ヒコキ作りは天的に上手かった。また、その制作数は半端ではなかった。ワンプクで、友だちとともに野山で遊びまわっていた。

・一九六七年、山梨県立吉田高等学校商業科卒業。

在学中、山梨県高校美術展に油絵を出品。銅賞を受賞した。

・一九六八年、武蔵野美術大学短期大学部通信教育部デザイン科中退。（当時は学生運動等がさかんで、授業がストップしたりしたため仕方なく中退した）が、地元で油絵の制作活動及び発表など続ける。

以後発病するまで家業の工業用ミシンによる刺繍業に従事。

・一九九一年、脳出血により利き手側の右半身不随となる。入院生活を重ね、少しずつリハビリもできるようになる。

・一九九五年、この頃から左手を使ってスケッチやイラストを描く訓練を始める。

・一九九九年、川崎市へ転居、現在に至る。

以上のプロフィールを読んで「なるほど!」と思った方は、かなりのアートビリティ通です。実は、この尾崎さん、登録作品全てに「飛行機」を描いているのです。

初めて審査会へ出展されたときは、スケッチブックにいくつも「飛行機」だけが描かれていたほど。「飛行機」好きは、子どもの頃からだったようです。

しかし、なぜ「飛行機」ばかり描くのか?この質問は、ご本人にはまだしていません。ただ思うのは、障害をもったことによつて、元気に遊びまわっていた頃がより懐かしく感じるようになったからではないでしょうか?

そのような、いろいろな思いを込めて描いているからこそ、尾崎さんの作品には「懐かしさ・あたたかさ・やさしさ」を感じることができるような気がしてなりません。

(事務局 宝田多賀子)

応募作品はすべてインターネットで公開。障害児のための児童画コンクール

キラキラとアート コンクール

ここのドキドキと、あつちのワクワクが、ひとつになる。

応募されたみんなの作品は、
「愛知、エフエムの
ホームページで公開するよ!」
詳しくは裏面を役7ね!

こどもe.com
http://www.kidomoe.com

主催●三菱地所株式会社
協力●社会福祉法人東京コロニー アートビリティ(旧称・障害者アートバンク)/こどものe.com
応募受付期間●2002年8月15日～2002年9月15日まで

障害児のための全員参加型絵画展

「キラキラとアートコンクール」を開催します。

アートビリティでは、三菱地所株式会社様のご支援を受けまして、障害児のための「キラキラとアートコンクール」を開催することになりました。これは、応募した作品をすべてもれなくインターネット上の児童絵画のウェブサイトである「こどものエコム」のオリジナルページに公開するという、まったく新しい形の全員参加型絵画展なのです。

「こどものエコム」上で、何度も発信していることではありますが、子どもたちの絵画は彼らの生活の記録であり、一枚一枚に心の成長が表現されています。そんな貴重な作品を、審査して優秀作品だけを展示するのではなく、参加したすべての子どもたちに発表の場を与えるという画期的なイベントです。これはまさに「こどものエコム」ならではの企画といえるものです。

さらに、公開された作品の中から優秀作品のみを厳選した原画展示や、アートビリティへの登録のチャンスという付加価値も用意されています。応募期間は、8月15日～9月15日(必着)。詳細は、東京コロニーならびに「こどものエコム」のホームページにてご案内していますので、お問い合わせください。

問合せ先 03-5287-6061 東京コロニー・アートビリティ(宝田・岡島)

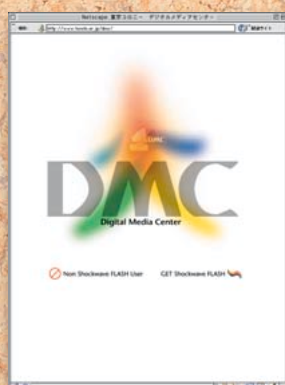


東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>

東京コロニーの ホームページ



コロニー中野・コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



IT事業本部事務局
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



トーコロ情報処理センター機能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



アートビリティ 旧 障害者アートバンク
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>